

令和 7（2025）年度 第 2 回社会教育委員会議 議事録

1 日時

令和 7（2025）年 8 月 22 日（金） 午後 1 時 56 分～4 時 5 分

2 場所

市民プラザ 2 階 風の部屋 2

3 出席者

- 【出席委員】 小山委員、村田委員、遠山委員、櫻井委員、矢内委員、中村委員、本間委員、蓮池委員〔計 8 名〕
- 【欠席委員】 清水委員、森委員、田辺委員、高橋委員、金子委員〔計 5 名〕
- 【事務局】 西巻文化・生涯学習課長、企画管理係員 3 名〔計 4 名〕

4 概要

(1) 議題

ア 第四次生涯学習推進計画の進行管理について

【主な質疑】

1. 施策 1－6 関係者連絡ネットワークの構築
実施の見通しはあるか。
2. 施策 1－4 「人材バンク」の PR と人材活用の更新
内容やこういった年齢層からの相談が多いか。
3. かしわざき子ども育成基金の残高が減っているのか。
4. 施策 3－1 地域資源の活用
今年度、野外おんがく堂が実施されるのか。

【事務局回答】

1. マナビィステージが交流の場となっている。もしかしたら、2 年に 1 回の社会教育団体の更新時に設けることができるかもしれない。
2. 手芸などが多い印象。コミセンから、講座の計画のための相談を受けることが多いが、実際の受講年齢層は分からない。
3. 事業の実施状況や参加する子どもの数に応じて年度の事業費に変動がある。基金の考え方には複雑な制度があるので残高を予想しづらい。
4. 予算化はしていない。

イ 第五次生涯学習推進計画の策定について

【議事】 今回の会議では、「取り組む課題」、「基本目標」、「重点目標（主要施策）」での意見が欲しい。

（ア） 取り組む課題

事務局案として、以下5点を例示した。

- ・ 「生涯学習」という言葉の認知度の向上
- ・ 学習場所として回答が多かった「自宅」での学習環境の支援に加え、自宅以外での活動を増やせるよう、各所での講座等の充実を進める。
- ・ ICTを活用した、時間に縛られない環境が必要である。
- ・ 生涯学習を始めるためのハードルを下げていく。
- ・ 「生涯学習関連施設などにおけるサービスの充実」を求める回答が多かったことから、引き続き取り組む。

【主な意見】

- ・ ICTで外国語を学べるとよい。
- ・ チラシやパンフレットの配布よりは、口コミなど顔が見える関係性から学習が進むと良いと思う。
- ・ 高校生が受験できる資格取得を勧めたい。
- ・ 生産年齢は職業上必要で学習をし、高齢者は趣味のため学習していることを踏まえ、学習を継続しながら趣味につなげていくといいのかもしれない。
- ・ 「ICT」と聞いただけで拒否してしまう年齢層がいる。そういった人を取りこぼさない取組が必要だし、コロナ禍よりも出生率が低下していることを考え、子どもを産み育てられるような環境も必要。
- ・ 人や社会とのつながりを幼いうちから築くとよい。

（イ） 基本目標

事務局案として、「未来を見据え ともに学びあう 活気あるひとづくり・まちづくり」を例示した。

【主な意見】

- ・ 「共に」という語は、個人で学ぶ場合は使わない。
- ・ 柏崎市第六次総合計画に入っている未来の語は入れたい。
- ・ 幅広い年代に受け入れられやすいものにしたい。

【審議結果】 委員の意見を踏まえ、

「未来へともに 学びあい 活気あるひとづくり・まちづくり」と
「未来を見据え ともに学びあう 活気あるひとづくり・まちづくり」の
2案で今後検討する。

（ウ） 重点目標（主要施策）

21 項目あった第四次生涯学習推進計画を踏まえ、スリム化するために 14 項目としたい。

【審議結果】 提案どおり承認

(2) その他

社会教育委員研究大会や人権教育研修会、公民館大会への参加を周知した。